

No. 010

## かまぼこ製品からの食塩の摂取量とそれに感応する食塩感受性には個人差がある

**研究タイトル**； 健常者のかまぼこ摂取による血圧及び血清脂質に及ぼす効果の研究

**主任研究者**； 近畿大学農学部食品栄養学科助教授 吉川賢太郎

**研究目的**； かまぼこは、低脂肪、高タンパク質の食材であるばかりでなく、DHA(ドコサヘキサエン酸)、EPA(エイコサペンタエン酸)、タウリン等を含み、その効果により様々な効能があるといわれています。しかし、かまぼこの分析やその原料の成分についての報告はたくさんありますが、かまぼこの健康保持増進に有用な効果を科学的根拠にもとづいて栄養疫学的に解明した報告は少ないのです。そこで市販かまぼこを健常者に継続的に摂取してもらい、各種身体所見を調査し、諸要因の経時的変化を観察し、生活習慣病のリスクファクターである血圧、血清脂質に与える効果を検討しました。その目的はかまぼこ摂取による健康保持増進に関する基礎資料を見つけることにあります。

**研究結果**； 市販かまぼこ 160g を毎日 7 日間継続摂取（実験 1）および 20g を毎日 7 日間継続摂取（実験 2）させた 3 人を被験者とし、かまぼこによる健康人の血中脂質と血圧に及ぼす効果について予備的研究を行った。摂食前後と摂食終了 2 週間後に 3 回空腹時採血した。血中脂質は実験 1、実験 2 ともほとんど摂食前後において変化がなかったが、血中 Angiotensin I は実験 1 の条件で摂食前と後を比較して被験者 3 人が増加した。このときの血中 Aldosterone はほとんど変化がなかった。実験 2 での血中 Angiotensin I は 2 人が増加、1 人は変化が無く、血中 Aldosterone は 1 人が増加、2 人は減少した。実験 1、実験 2 の血中 Angiotensin I、Aldosterone の動向を観察すると、かまぼこの含有食塩の摂取量とそれに感応する食塩感受性の個人差によるものと推測される。

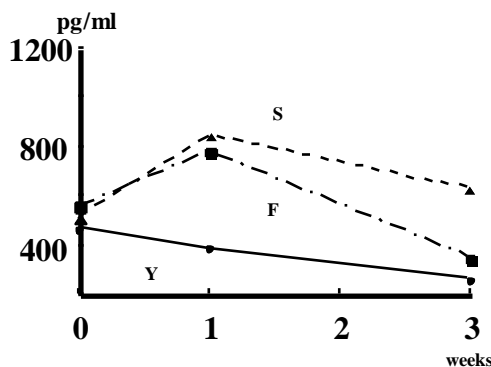


図 蒲鉾160gの摂取前後と終了2週間後のAngiotensin Iの変動

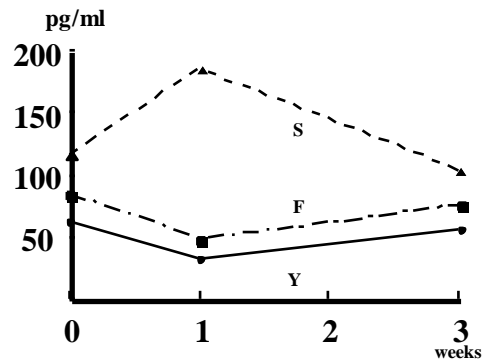


図 蒲鉾160gの摂取前後と終了2週間後のAldosteroneの変動